

有山 滋郎さん (留学国：アメリカ)

国連食糧農業機関 (FAO) パキスタン テクニカルオフィサー



● 現在の仕事内容

私は現在、国連食糧農業機関 (FAO) でテクニカルオフィサー (水管理分野) として働いています。FAOは世界のすべての人々が食糧安全保障を達成し、健康的な生活を送るために十分な食料の量と質を確保できるようにすることを目標にしています。農業は水使用量の多くを占める産業であるため、水資源管理は農業と密接にかかわっています。そのため私はFAOで水資源を持続可能な形で使えるような仕組みを作る仕事をしています。2017年から2021年まではエジプトにある近東北アフリカ地域オフィスに勤務し、2021年後半からはFAOパキスタンオフィスで現地政府機関や農家に水関連の技術指導をしたり、水資源管理に使うツールを開発する活動に従事しています。

● 留学時代の体験談



高校2年から何を将来仕事にしたいかを考え始め、途上国支援をする仕事に就くことを目標にしました。英語が苦手だったため、英語と途上国支援に役立つ専門性を同時に身に付けるために英語圏での留学を決めました。英語で教える大学は非英語圏の国にも多いですが、英語力を上げるためには英語を母国語とする国で勉強したいと考え、アメリカ、イギリスを候補にしました。当時イギリスはポンド高だったこと、アメリカの大学は奨学金がある大学も多いことから、コストの観点でアメリカを選びました。

留学当初はできるだけ日本語を使わずに生活することを意識していましたが、大学3年生までは英語のハンデがかなり大きかったように思います。3年開始時から別の大学に転学し、3・4年次は4年間で卒業するためにかなり多くの単位を取っていたこともあり大学3・4年次が今までの人生で一番大変でした。院時代も農業開発学と水文学という2つの修士号を取得したため、普通の学生よりは忙しいスケジュールでした。必要単位を取得した後、水文学の修士論文を書き終わる前に就職し、論文を書きながら仕事をしていました。そのため就職してから論文を提出するまでの期間もかなり忙

しかったです。大学、大学院生の当時は勉強で辛かったこともありますが、今振り返ると自分を追い込みよく努力したなと思える充実した期間でした。

私生活の面では、旅をしたり、友人の家族の家に遊びに行ったり、アメリカ文化にふれあいろいろな体験ができました。アメリカ人はもちろん様々な国出身の留学生の友人ができ、世界の文化について知ることができたのは良い経験でした。

また、アメリカの大学や大学院を卒業すると、アメリカで数年間仕事をする事ができるのですが、卒業後2年間アメリカで仕事ができただ期間にアメリカの仕事文化を学べたのも大きな財産になっています。

● 留学で学んだことが現在どのように役立っているか

ももとの目的であった英語力と開発途上国に有用な専門性を得ることは学士、修士の留学を通して十分に達成できました。

一番最初の仕事が青年海外協力隊員として、ザンビアの短大での水と土壌分野の講師だったのですが、講師という仕事柄、大学の授業で学んだことがほとんどそのまま役に立ちました。また、大学院での授業が今の仕事に関係があり、修士論文を書いたことも仕事でレポートを書くのに役に立っています。

また留学は私の性格面や価値観の面で大きなプラスになりました。もともと個人主義的なところがあつた私ですが、留学当初は英語力が足りず多くの人に迷惑をかけ、お世話になりました。その経験を経て以前より他人に寛容になり、周囲への手助けを積極的にするようになったように思います。



● 後輩へのメッセージ

私は留学して良かったと思いますが、だれにでもお勧めはしません。留学するとより頻繁に学び・成長の機会がやってくると思います。しかしその機会に向き合わず実りのない期間になってしまうと、日本にいた方が良かった、ということになりかねません。

私の場合はハードな留学生活になりましたが、どんな留学になるかは皆さん次第です。留学を成功させるために一番大事なことは事前に留学後にどうなりたいか・何をできるようになりたいかという具体的な目標をはっきりと定めることだと思います。この目標をもとに、適切な留学の期間、プログラム、学校をしっかりとリサーチして選ぶことも大事です。

また、私と同様あまり社交的ではない方へのアドバイスをする、まずは日本や自分と共通の趣味がある友人を見つけることをお勧めします。そして何とかとっかかりを見つけて休みの日に遊びに行ったり、勉強以外の日常生活で会話をしてみてください。友人との会話は言語習得のためにも価値観や文化を学ぶためにもとても大事だと私は感じました。今までより少しだけ勇気を出して、積極的に人間関係を作るよう頑張ってください。